

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

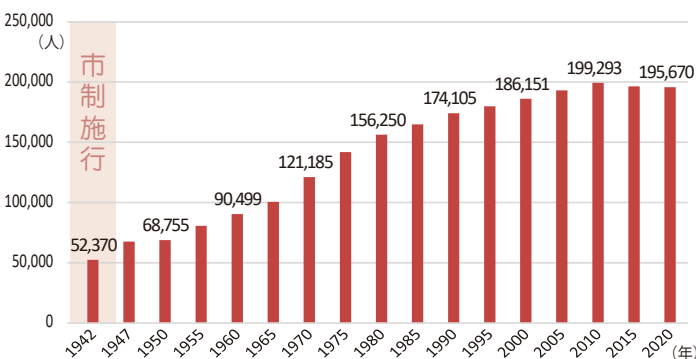
◆ 鈴鹿市の人口推移(国勢調査人口) ◆

1942(昭和17)年の市制施行時、52,370人だった鈴鹿市の人口は、2020(令和2)年に195,670人と、約3.7倍になりました。2006(平成18)年3月には住民基本台帳人口が20万人に到達しましたが、近年は少子化による人口減少社会を迎え微減に転じています。



▲20万人到達セレモニー

●人口推移 出典:鈴鹿市統計要覧(令和2年度)



●市制施行時と現在の人口

地区名	市制施行時 (1942年)	現在 (令和2年)	増減
総数	52,370	195,670	143,300
	[70,501]		
国府	3,544	11,885	8,341
庄野	1,673	4,456	2,783
加佐登	2,963	5,307	2,344
牧田	1,473	14,602	13,129
石薬師	2,963	6,030	3,067
白子	10,391	31,046	20,655
稻生	2,831	12,064	9,233
飯野	2,018	15,388	13,370
河曲	3,136	10,057	6,921
一ノ宮	3,911	14,209	10,298
箕田	2,671	4,585	1,914
玉垣	4,465	27,596	23,131
若松	5,002	7,121	2,119
神戸	5,329	4,979	-350
栄	(2,762)	10,644	7,882
天名	(1,844)	1,456	-388
合川	(2,151)	1,513	-638
井田川	(1,353)	2,235	882
久間田	(1,669)	1,887	218
椿	(1,481)	1,459	-22
深伊沢	(1,386)	1,940	554
鈴峰	(2,936)	3,240	304
庄内	(2,549)	1,971	-578

出典:鈴鹿市統計要覧(令和2年度)

井田川・久間田・椿・深伊沢・鈴峰各地区の(数値)については、合併当時の人口です。〔 〕は現市域内人口、()は合併前人口、分村合併地区の割合により推計したものです。

ひと・まち・モータースポーツ

モータースポーツお宝探検隊 vol.13

1966年4月の鈴鹿サーキットで、当時20歳の^{たち まさ のぶ}舘正信さん(算所)と写真に収まるリッチー・ギンサー選手(アメリカ)。前年のメキシコGPでホンダF1に記念すべき初優勝をもたらした名ドライバーです。写真には直筆サインが書き込まれています。

舘さんは当時、鈴鹿サーキットのイベントに参加していました。そのイベントの目玉は、ギンサー選手が運転するホンダF1凱旋デモ走行でした。舘さんは、あこがれのギンサー選手と写真が撮れないかとパドックで待つこと数時間。ついにツーショットが実現しました。さらに撮った写真にサインがほしいと思った舘さん。当時は写真の現像に数日かかる時代。しかも、多忙なF1ドライバーの滞在時間はわずかです。

そこで舘さんがとった“作戦”が、知り合いの写真屋さんにお願ひし、徹夜で現像してもらうことでした。仕上がった写真を手に舘さんは、翌日再び鈴鹿サーキットに向かい、首尾よくギンサー選手と再会。念願のサインをもらうことができました。この1枚の写真には、そんな物語が込められています。



▲ギンサー選手と舘さん

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



車が歩道に突っ込み、次々と人や駐輪自転車を跳ね飛ばしながら、電柱に激突。これは20数年前、交差点で信号待ちをしていたとき、渡ろうとする先で実際に起こった事故です。後のニュースで、飲酒運転による事故であったこと、一人の高齢者が亡くなられたことを知りました。もし信号が早く変わっていたら私はこの世にいなかったのかもしれない。今でもそう考えるときがあります。

今回は交通安全について特集しました。国内で年間数千人も亡くなっていると言われても、他人事に感じてしまう交通事故。でも、今まではたまたま遭わなかっただけで、前述の事故のように、生と死を分けるのは、案外紙一重のような気がします。

こうしておけばよかったと後悔しても、後戻りはできません。自らの命を守るためにも、道路上ではしっかり安全策をとりたいものです。(一)